

## 共通教育科目「海の地質学」

### 2007年度前期期末定期試験問題

「地学」分野は一般常識をはるかに超えた時間や空間規模の事象をとりあつかうことが多い。また、海底や地下深くにあって直接的に目にすることができない現象を説明しなければならない状況も多々ある。そこでこの講義では、履修者のこのような諸事象についての理解を助けることを狙い、講義室で実際にみて理解してもらえるような各種実験教材を授業で積極的に用いてきた。たとえば、「インスタントコーヒーとクリームを使つての付加体の形成」実験などを覚えていることと思う。しかし、このような教材の種類がまだまだ不足していること、あるいは現在のものでは不十分であることは承知している。そこで、以下について考えてもらいたい。

問1. 本講義を受講してみて、「視覚的・聴覚的に理解できる教材があつたらより理解しやすいだろうな・・・」と考えるのはどんな授業内容、あるいは事象の説明のときだったか。考えつくものを5つまであげなさい。(ひとつ10点で計50点)

問2. 「問1」であげた5つについて、ではどのような教材化(教材の作成)が考えられるだろうか。それぞれについて具体的な例を考えその材料や実験方法、講義室での提示方法について記述・図示しなさい。(ひとつ10点で計50点)

問2について、本講義で実際に使つた教材の手直し程度のアイデア(たとえば、クリームのブランドを「マリームからクリープに変更」、など)は受け付けない。しかし、ちょっとした改良で画期的な効果が得られる(具体的な例をあげることは控える)のようなアイデアは受け付ける。

また、講義室内で実際に行える教材案はもちろんのこと、たとえばビデオカメラなどを使って映像化したものを講義室内で見せることでも実施可能なアイデア(たとえば、野外で実際の事象を撮影したもの、低温や長時間などの特殊条件が必要なため講義室では実演できないもの、など)でもかまわない。



環日本海域環境研究センター  
塚脇真二